

397

84

滋賀縣の砂防

始



滋賀縣の砂防

397-84

緒言

本縣ニ於ケル四圍ノ山嶽ハ秃兀タル緒山多クシテ降雨毎ニ土砂ヲ河川ニ流下シ其ノ被害尠ナカラザリシヲ以テ明治五年來政府竝縣ニ於テ砂防工事ヲ施行シツ・アリト雖之レニ投工費年額僅カニ九萬餘圓ニ過ギズ前途尙遠遠タリト雖工費進捗ニ伴ヒ近時効果ノ見ルヘキモノアリ茲ニ沿革及工法要等ヲ編纂シ以テ參考ニ資ス

大正九年十一月

滋賀縣

概 9ノ12ル6
内交



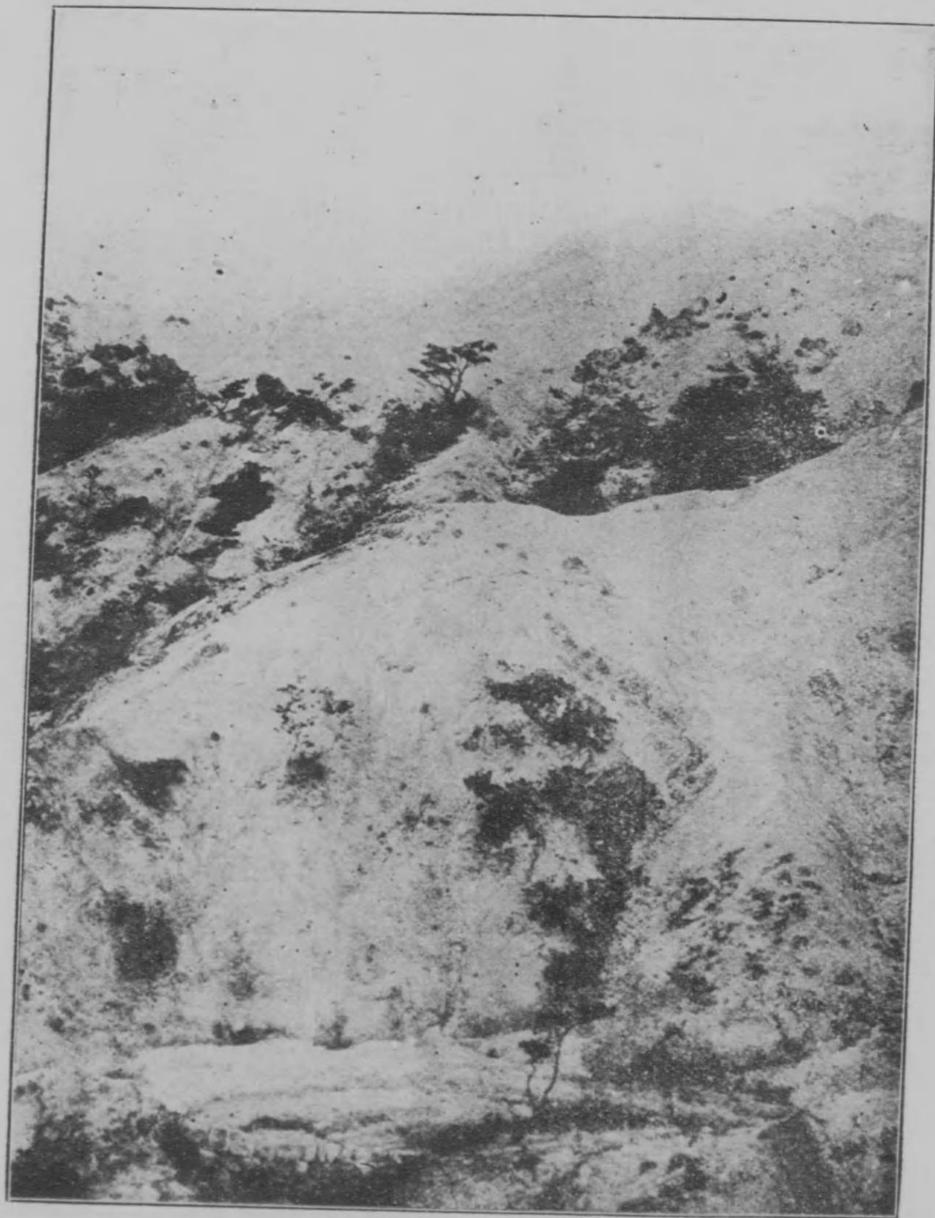
滋賀縣の砂防

目次

| | |
|-----------------|----|
| 一、山林荒廢ノ原因 | 一 |
| 二、施行ノ順序方法並反別及工費 | 五 |
| 三、工法及植樹 | 九 |
| 四、地質 | 三 |
| 五、効果 | 一五 |
| 六、指定地ノ取締 | 一七 |
| 七、將來ノ計畫 | 一七 |
| 八、篤志家 | 一八 |
| 九、砂防ニ關スル法規 | 二六 |

況實ノ(質岩崗花)山緒(一)

野州川域甲賀郡岩根村内地砂防工事施行前緒ノ景ヲ





況實ノ時當功竣事工防砂(二)

工石積・工苗積ヲシト事工防砂ニ山緒ノ所箇眞寫號一第
リナルタシ栽植ヲ苗松・苗櫻山シ行施ヲ類ノ堤堰土・堤堰石
歩反七町五拾貳別反行施 圓五拾八百六金費栽植 圓貳拾九百貳千八金費工

況實ノ後年三功竣事工防砂（三）

シニ況實ルタシ過經ナ年三後行施事工防砂ノ所箇真寫號一第
リア、ツシトシハ覆ヲ表地ニ將シ育發次漸カ木苗シモ栽植ヲ





況實ノ後年十二功竣事工防砂（四）

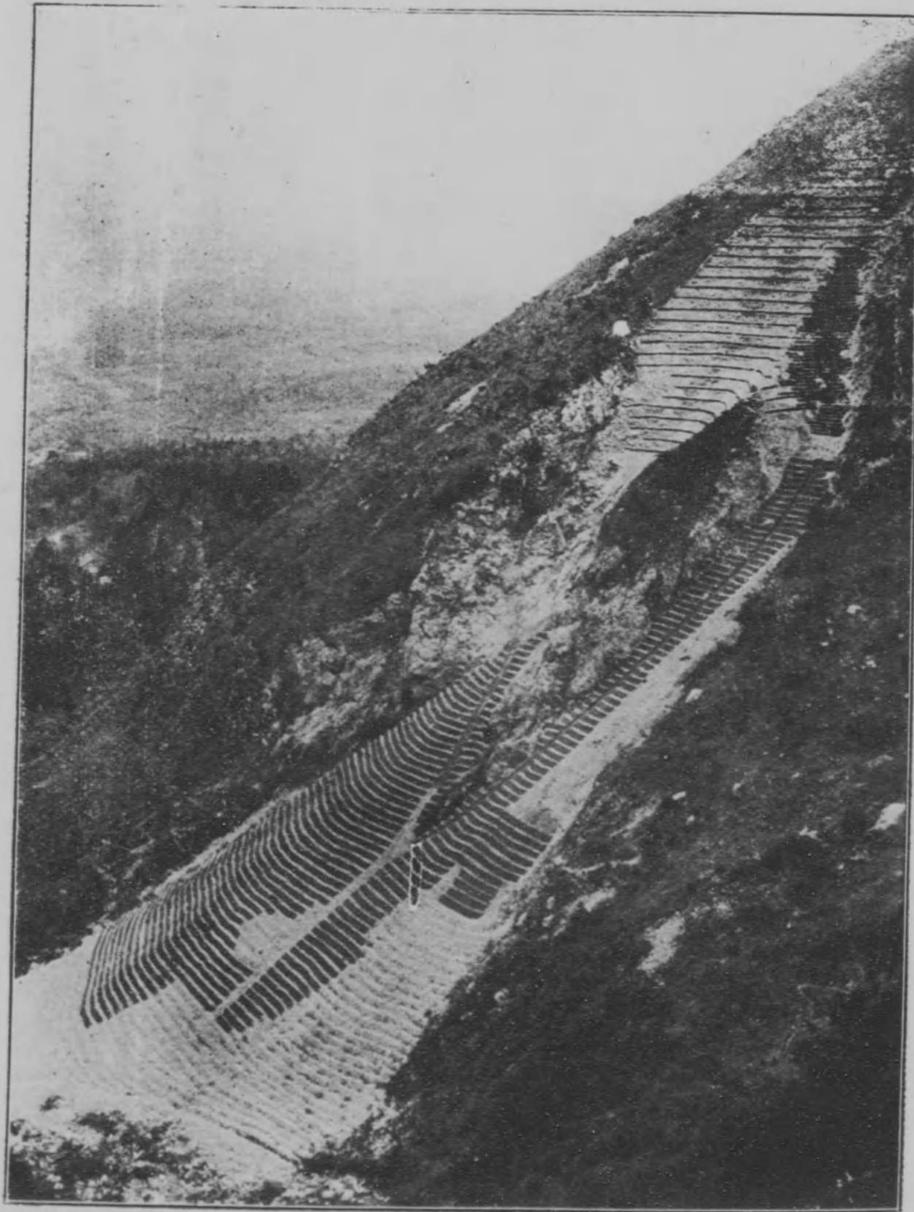
實ルタニ過經ヲ年十二後行施事工防砂ノ所箇眞寫號一第
リナルタニ達テ的目ノ防砂ク能ヒ覆テ表地ク全テシニ況

況實ノ(質層生古父秩)地壞崩部局 (五)

麓南東山吹伊内地野上字大村吹伊郡田阪域流川高彌川支川野天

リナ景真ノ(分五割一約斜傾)地壞崩部局ノ





況實ノ時當功竣事工防砂シセ行施ニ地壞崩部局 (六)

テシニ況實ルタゞ終シ行施ヲ事工防砂ニ地壞崩ノ所箇眞寫號五第
ゞナ類ノ工芝張路水・工石張路水・工石積・工苗積 テント主ハ法工
歩反參町參別反行施 圓八拾六百元費栽植 圓壹拾貳百千貳金費工

景真ノ地壊崩大山吹伊(七)

眞ノ地壊崩大ノ麓南西山吹伊内地寺平大字大村吹伊郡田阪地源水ノ川富大川支川姉
 濃月十年四十二治明モルナ詳不ハ代年シメ始シ壊崩一歩町十三約積面ノ其テシニ景
 大ノ北湖下縣月八年二十四治明テ續シ加増城區ノ壊崩ケ受テ波餘際ノ災震大ノ地尾
 ニ儘ノ此シ若シ下落礫砂ニ共ト水流ニ每雨降シ張擴ニ層一城區ノ其テシ遇遭ニ災震
 設築ヲ堤堰ヨリ流下來度年六正大テ以テスホ及テ響影大ニ川姉流本カンカ置シ棄放
 ナ畫計キヘス行施ヲ工防砂シ對ニ地壊崩此後今キ續引テリア、ツシ成構ヲ礎基テシ
 影攝際ノ查實師技務内田池月八年六正大ハ置寫此附





(八) 現大山川上流砂漠地ノ往古ノ狀況

此ノ繪圖ハ本文ニ記載ノ甲賀郡岩根村大字菩提寺地内大山川上流ニ於ケル往古(約四百二十年)前)ノ狀況ニシテ繪中上部ノ八王子村ハ背後ノ山岳崩壞ノタメ埋塞シ今ノ第九編寫眞ノ如キ砂漠地ニ變化セリ復下部ニアル數多ノ堂宇ハ織田信長時代兵燹ニ罹リテ全滅シ現時ハ岩根村中ノ一部落タリ

(九)



碑念記德頌ノ家兩本塚(十)

累ニ事工防砂縣ガ氏兩ノ之正本塚・次定本塚 村莊個五南郡崎神ノ載記文本
 五ニ已トコルツ建ヲ碑念記德頌シ浴ニ澤恩其民方地係關ス供提ヲ金附寄年
 ハ文碑ヲナノモルセ設建ニ村山葉郡太栗テシニーノ其ハ眞寫本ア及ニ所ケ

德 彰

滋賀縣知事 佐藤大願
 於湖嶽地質 確兀不泥沙崩落水源涸渴河流難
 懷官嘉塞諸嶽 加被地質 確兀不泥沙崩落水源涸渴河流難
 恩嘉塞諸嶽 加被地質 確兀不泥沙崩落水源涸渴河流難
 碑其歲嶽地質 永斯被地質 功大基礎確兀不泥沙崩落水源涸渴河流難
 德進郡我塚本氏有慨於此兄弟出資誘掖安
 建部神宮司 笠清水保吉撰
 滋賀縣技師 笠清水保吉撰



滋賀縣砂防指定地區圖

大正九年三月現在

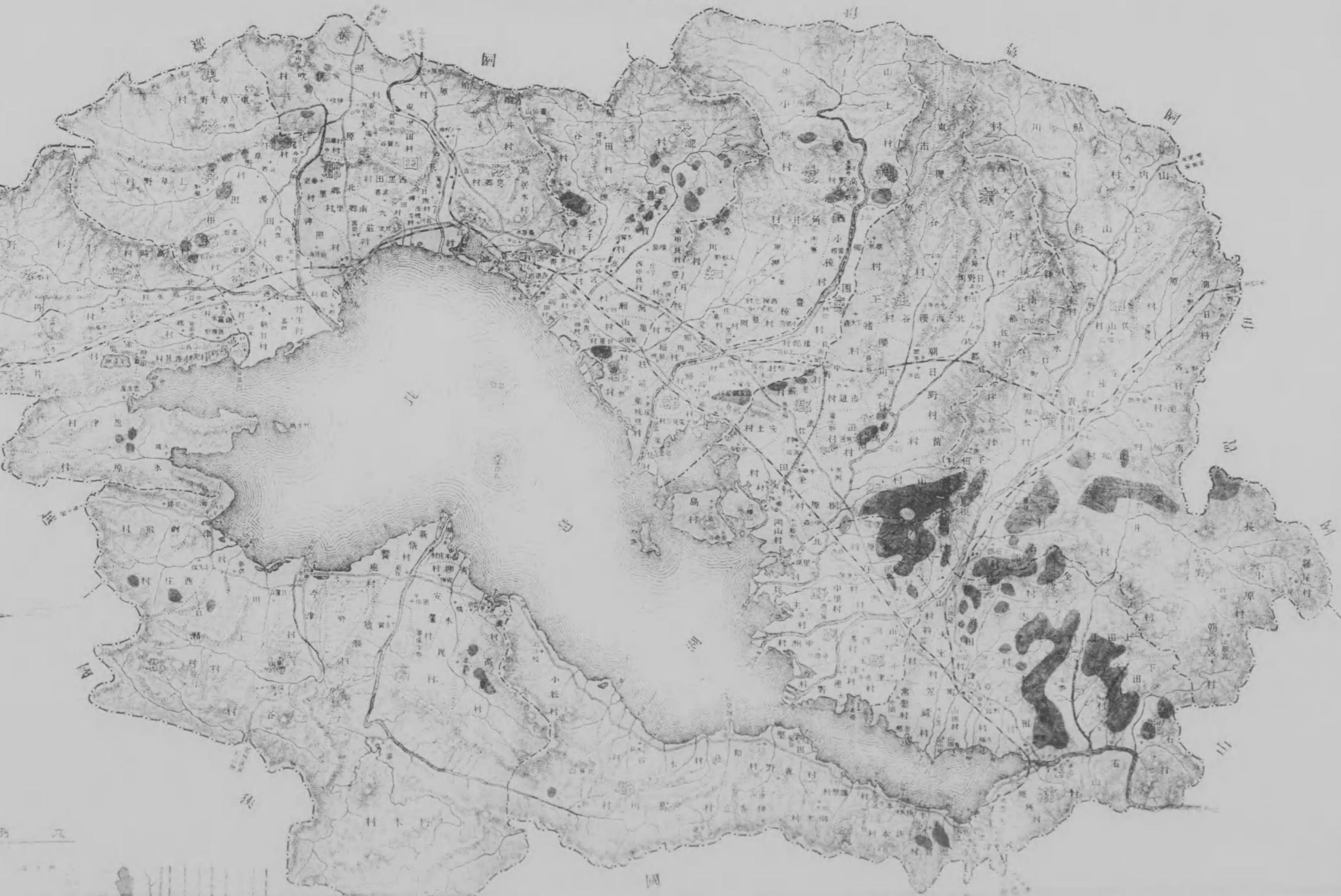


滋賀縣防砂指定地區區域圖
大正九年三月現在



滋賀縣防工事既濟地區圖

大正九年三月現



滋賀縣防砂工事既濟地區圖

大正九年三月現在





凡例

一、 道路
 二、 河川
 三、 山脈
 四、 砂防地
 五、 海岸線
 六、 境界線
 七、 町界線
 八、 村界線
 九、 大字界線
 十、 郡界線
 十一、 縣界線
 十二、 國界線
 十三、 鐵道
 十四、 電氣線
 十五、 電話線
 十六、 郵便線
 十七、 測量線
 十八、 測量點
 十九、 測量點
 二十、 測量點
 二十一、 測量點
 二十二、 測量點
 二十三、 測量點
 二十四、 測量點
 二十五、 測量點
 二十六、 測量點
 二十七、 測量點
 二十八、 測量點
 二十九、 測量點
 三十、 測量點
 三十一、 測量點
 三十二、 測量點
 三十三、 測量點
 三十四、 測量點
 三十五、 測量點
 三十六、 測量點
 三十七、 測量點
 三十八、 測量點
 三十九、 測量點
 四十、 測量點
 四十一、 測量點
 四十二、 測量點
 四十三、 測量點
 四十四、 測量點
 四十五、 測量點
 四十六、 測量點
 四十七、 測量點
 四十八、 測量點
 四十九、 測量點
 五十、 測量點
 五十一、 測量點
 五十二、 測量點
 五十三、 測量點
 五十四、 測量點
 五十五、 測量點
 五十六、 測量點
 五十七、 測量點
 五十八、 測量點
 五十九、 測量點
 六十、 測量點
 六十一、 測量點
 六十二、 測量點
 六十三、 測量點
 六十四、 測量點
 六十五、 測量點
 六十六、 測量點
 六十七、 測量點
 六十八、 測量點
 六十九、 測量點
 七十、 測量點
 七十一、 測量點
 七十二、 測量點
 七十三、 測量點
 七十四、 測量點
 七十五、 測量點
 七十六、 測量點
 七十七、 測量點
 七十八、 測量點
 七十九、 測量點
 八十、 測量點
 八十一、 測量點
 八十二、 測量點
 八十三、 測量點
 八十四、 測量點
 八十五、 測量點
 八十六、 測量點
 八十七、 測量點
 八十八、 測量點
 八十九、 測量點
 九十、 測量點
 九十一、 測量點
 九十二、 測量點
 九十三、 測量點
 九十四、 測量點
 九十五、 測量點
 九十六、 測量點
 九十七、 測量點
 九十八、 測量點
 九十九、 測量點
 一百、 測量點

一分高尺三寸

滋賀縣の砂防

一、山林荒廢ノ原因

縣下ノ地勢タル四圍山嶽連続シ隣府縣ト自然ノ境界ヲナシ從テ是等山岳ヨリ發セル七十有餘ノ河川中藤子川外三川ヲ除クノ外ハ皆中央ノ琵琶湖ニ注入シ瀬田川ニヨリ大阪灣ニ放流ス

然シテ是等諸川ノ水源地タル山嶽ノ多クハ禿禿セルヲ以テ降雨毎ニ崩壞シテ土砂ヲ河川ニ流下シ漸次川底ヲ隆起セシメタルコトハ現ニ川底ヲ横鑿シテ通路トセルカ然ラサレハ兩詰道路ヲ高ク築立テ橋梁ヲ架

設セルモノ多キニ徴シ明カナリ

抑モ是等諸山カ往昔如何ナル林相ナリシヤ又何ニ基因シテ斯ク荒廢セシカハ未タ之レヲ詳ニスル能ハス

ト雖地方ノ傳説又ハ古刹ノ舊記等ニ依レハ往古ハ蒼鬱タル森林タリシモ平安朝以後神社佛閣其ノ他ノ大建築物ノ盛ナリシ當時之レカ用材ニ濫伐シタルモノ、如シ今其ノ一例ヲ掲クレハ比叡山延曆寺ノ造營材

ハ主トシテ甲賀郡ノ南部地方ヨリ供給セラレシモノ、如ク同郡岩根村ノ古刹善水寺ノ縁起ヲ左ニ抄出ス

上略延曆五年 桓武天皇ノ勅願ヲ以テ延曆寺ノ建立アリ時ニ良材ニ乏シキヲ以テ傳教大師當郡杉湖ヲ

(現今南杣村大字杉谷附近ナラン)飛錫巡檢シ給フニ萬株ノ喬木參差トシテ繁茂ス大師喜悅シテ曰ク大

願成就セリト乃杣人ニ命シテ之レヲ伐ラシム然レトモ道路險峻因テ横田川ニ流サントスルニ會々旱魃
之ヲ如何トモスルナシ

天子宸襟ヲ惱マサレ大師勅ヲ奉シテ此處ニ雨ヲ祈ル(中畧)靈驗空シカラスシテ降雨ス後二年ヲ經テ延
曆七年諸閣建立成ル叙感ノ餘リ大師ニ詔アリ請雨修法不日法雨四海ヲ潤シ萬民ノ憂ヲ救ヒ且朕カ大願
成就スト是レ靈佛ノ冥助且法力ノ致ストコロナリ報恩謝德ノ爲メ其地ニ一字ノ梵刹ヲ建立シ永ク化益
ヲ施スヘシト乃チ寺號ヲ賜ヒ善水ト號ス(以下畧)

又一説ニ據レハ往古ノ奈良大佛殿モ其ノ材料ヲ栗太郡田上山ニ仰キタリトノコトナリ

由來本縣ハ昔時延曆寺園城寺ノ末寺各所山中ニ散在シタリシモ織田信長ガ寺院征伐ノタメ兵燹ニ罹リ荒
廢セシト徳川氏ノ政策上旗本及諸藩竝由緒アル寺院等百有餘ノ領地ニ分屬シ然シテ當時ノ課稅苛重ナリ
シヨリ領民ノ多クハ之ヲ林産物ニ仰キ亦寺院ノ如キハ其格式ノ高キニ拘ハラヌ檀徒ノナカリシ爲メ林産
物ヲ以テ收入ノ主眼トシ一面亦本縣ガ京地ニ接近シアル爲メ木材薪炭ノ供給ヲ爲シタルト縣内平地部村

炭ヲ得ルニ苦ムヲ以テ領主ガ立入山ト稱シテ全ク利害ノ關係ナキ他村ノ森林ニ依リテ之ヲ得ルヲ
許セシ等森林ニ對シテ取締ヲ缺キ其ノ結果トシテ斯ク山林ヲ荒廢セシメシモノ、如ク然シテ斯ク荒廢ニ
歸セシ年歴ヲ推考スルニ明治二十五年野洲郡祇王村地内ニテ縣道ヲ横斷セル家棟川ニ隧道ヲ開鑿セシト
キ川底二十五尺下ヨリ寬永通寶ヲ現出シ又甲賀郡岩根村西應寺所藏ノ圓滿山少菩提寺四徑封疆ノ繪圖

(卷首ニ掲ク)ニ明應元年(約四百二十年前)ノ頃現大山川ノ大砂漠地ニ八王寺神社八ヶ堂宇ト菩提寺外二
十數個ノ寺院及三十有餘戸ノ八王寺村ナル部落アリシモ背後ノ山岳崩壞シテ漸次部落ヲ埋没シ幾多人畜
ニ害ヲ及ホシ村民其ノ居ニ安ンゼズ遂ニ現今ノ大字菩提寺ニ移住セリト其ノ地方ノ口碑ニ傳ハル又古老
ノ言ニ據レハ今ヨリ約九十年前ニハ八王寺神社ノ華表ノ上部ガ砂礫中ヨリ露出セラレ兒童等戯ニ之ヲ飛
ヒ越テ遊ビタルコトヲ記憶セリト然ルニ今ヤ何等ノ遺跡ナク只渺茫タル大砂漠ト化シ蜿蜒々タル堰堤長蛇
ノ如ク横ハルノミ

又蒲生郡鏡山ニ砂防工事施行中地中ヨリ檜材檜皮等ヲ發掘シ其ノ年歴ヲ考フルニ四百年前後ノ遺物タル
モノ、如ク其ノ他各地ノ土中ヨリ發掘セル遺物ヲ綜合シテ調査考究スルトキハ本縣山岳ノ荒廢ハ遠クモ
三百年ヲ出テザルヘク推想セラレ

水源地荒廢ノ結果ハ直ニ河川ニ災害ヲ及ホスコトハ避クヘカラサル事實ニシテ往古ハ知ルニ由ナキモ紀
元一五七八年乃チ延喜十八年ヨリ紀元二二六五年乃チ慶長十年迄約七百年間僅カニ四回ノ水害タリシニ
同年ヨリ今年マデ約三百年間ニ十有餘回ノ水害アリテ其ノ頻繁ナルハ要スルニ水源地ノ荒廢ニ基因スル
ニ外ナラス

舊幕ノ末ニ至リ淀川上流ノ小支川タル大戸川ノ水源地緒山ヨリ土砂流下ノタメ淀川ノ水害ヲ蒙ルコト漸
次劇甚ナルニ至ルヤ大阪奉行、京都所司代、及膳所藩ニ命シ山林ノ取締ヲナサシムルト共ニ膳所藩ヲシ

テ焦眉ノ急ナル砂防工事ヲ施行セシメタリト云フ

明治三十二年通常縣會ハ左記砂防工事擴張ニ關スル建議ヲナスニ見テモ砂防工事ノ急務ナルヲ認メ得ベキナリ

砂防工事擴張ニ關スルノ建議

砂防工事ノ必要ハ治水堤防ノ事業ト相俟ツテ撰ム處ナキ事業ナルニモ拘ハラズ當局者ガ本費ニ對スル要求額ノ年々歲々漸次遞減ノ傾キヲ呈スルハ何ゾヤ甚タ怪訝ニ堪ヘザルナリ抑モ本縣ニ於ケル砂防工事ハ國庫ノ補助ト篤志家ノ寄附金ニ依リ施行シツ、アリト雖トモ前者ハ法令ノ規定ニ從ヒ後者亦金額ニ制限アリテ兩者共充分之レガ擴張ヲ爲ス能ハス加之ナラス篤志家ノ寄附モ明年以後ニ於テハ餘ス處僅々六拾餘圓ニ過キザル少額トナリ實ニ遺憾トスル所ナレハ當局者ハ此際充分ノ調査ヲ遂ケ其筋ニモ稟議シ以テ益々右砂防工事施行ノ河川流域ヲ擴張セラル、様御畫策相成度

右本會ノ決議ニ依リ此段及建議候也

明治三十二年十二月二十日

滋賀縣會議長 谷 澤 龍 藏

滋賀縣知事 河 島 醇 殿

二、施行ノ順序方法並反別及工費

水源地荒廢ノ結果河底ヲ上嵩セシムルコトハ前述ノ如クニシテ然カモ一朝破堤センカ之レガ復舊ニ莫大ノ工費ヲ要スルハ勿論數年間又ハ永久ニ廣大ナル不毛ノ地ヲ生シ國家經濟上ノ不利尠ナカラス現ニ二十有餘年前野洲郡祇王村地内家棟川(一名童子川)又蒲生郡鏡山村地内日野川支流ノ河川破堤セシトキノ如キ之レガ急水止工費ノミニ數千圓ヲ要シタリ是等ハ僅々幅員一間内外ノ小川ニシテ尙且如斯實例ニシテ更ニ大ナル河川ニ至リテハ其ノ損害ノ大ナル推シテ知ルヘク又近キ實例ニ徵スレハ高島郡百瀬村地内百瀬川ノ如キ水源地荒廢ノタメ數年間ニ河底數尺上嵩シ爲メニ大正五年ヨリ大正七年ニ亘リ年々破堤シ之レカ復舊費ニ約八萬圓ヲ要シタリ之レニ破堤當時ノ水防費及破堤ニ因リ蒙リタル生産的ノ損害ヲ加フレハ無慮數十萬圓ニ達スルヲ以テ如何ニ水源地荒廢ニ起因スルノ損害ノ大ナルヤヲ知ルヘク彼ノ熊澤蕃山ノ「水ヲ治メントスルニハ先ツ山ヲ治ムベシ」トノ格言ハ至言ナルヲ思ハシム

水源地ノ荒廢ニ基ク損害ハ國土保安上一日モ等閑ニ附ス能ハザルノミナラス水利灌溉ニモ亦多大ノ影響ヲ及ホスカ故ニ政府ハ夙ニ之レカ涵養ヲ畫策セラレ明治五年來又縣ニ於テモ明治十六年來緒山ニ砂防工事ヲ施行スルコトトナリ其ノ施行シタルモノ二十九河川流域ニ亘レリ今之等費途ノ種別ヲ細別シテ其ノ創始年度及施行方面ノ概要ト尙創始以來ノ施行反別工費並其ノ工種ヲ掲クレハ別表ノ如シ

(イ) 國費事業

明治五年國費金貳萬圓ヲ以テ大藏省土木寮ト大阪府トノ立會ニテ瀬田川(淀川ノ上流)支流大戸川ノ水源緒山ニ砂防工事ヲ開始シ翌六年其ノ工ヲ竣ヘ續テ同七年ヨリ十年マテ毎年國庫金壹萬圓ヲ限度トシテ縣ニ於テ工事ヲ施行セリ

明治十一年度ニ至リ内務省雇工師「デレーケ」氏ノ設計ニテ工法ヲ改良シ土木局ト本縣ト立會施行セシガ同十五年度ヨリ土木局ノミニテ施行セラル、コト、ナリ今ニ及ブ又本川ノ外他ノ瀬田川支流ニ對シテモ施行セラレツ、アリ緒山トシテ著名ナリシ栗太郡田上山ノ現今森相ヲ呈スルニ至リタルハ本事業ノ功果ナリ

(ロ) 地方費單獨並國費地方費連帶事業

草津、野洲、家棟、日野、犬上ノ五川流域ノ水源地ハ荒廢甚シク水災旱害交々至リ一日モ忽ニ附スベカラサルヲ以テ明治十六年度ヨリ地方費ヲ以テ右流域ニ工事ヲ(明治二十一年度ノミ愛知川流域ニモ堰堤工事ヲ施行ス)開始シタリト雖地方費ノミニテハ到底其ノ急ニ應スル能ハサルヲ以テ屢々國庫ノ補助ヲ稟請セシガ明治二十一年度ニ至リ野洲、草津ノ兩川ハ淀川流域ニ直接ノ關係アルモノト認めラレ初メテ國費三分ノ一地方費三分ノ二ノ割合ニテ連帶工事トシテ施行スルコト、ナリシカ其ノ後連帶支辨ヲ廢セラレ野洲川流域甲賀郡岩根村大字菩提寺大字正福寺地内ハ内務省ニ於テ其ノ他ハ縣ニ於テ

施行シ來リシカ明治四十二年度ヨリ内務省ニテ施行セラレシ野洲川流域ノ工事ヲ廢止セラレタルニ依リ己ムナク縣ニ於テ應急工事ヲ施行スルト共ニ一面之レカ復舊方内務省ヘ請願セシカ途ニ大正四年度ヨリ大字正福寺ノ工事ヲ向フ十ヶ年間ノ計畫ニテ工費金六萬圓ヲ限度トシ内三分ノ一ハ縣費ヨリ納付シ内務省ニ於テ施行セラル、コト、ナレリ右連帶支辨工事中著シキモノハ大山川ノ堰堤トス此ノ長百十四間馬踏二間直高二間ノ土堰堤ニシテ堤表ハ張石トシ右岸ノ際端ニ石造洪水吐ヲ設ク本工事費約壹萬貳千餘圓ヲ要シタリ此堰堤ハ獨リ土砂ノ流下ヲ防止スルノミナラス滯留水トシテ數多耕地ノ灌溉用ニ供セラル

(ハ) 國庫補助工事

明治三十年砂防法實施ノ結果三十一年度ヨリ草津、野洲、家棟、日野、犬上ノ五川流域ノ砂防工事ニ對シ國庫ノ補助ヲ受ケ其ノ後淀川ニ關係セル他ノ諸川ニ及ホシ今ニ至ル其ノ内家棟川ハ明治三十九年度ニ犬上川ハ同四十一年度ニテ第一次ノ目的ヲ達シタリ本工事中著大ナルハ家棟川堰堤ニシテ大山川ト同様砂防ノ目的ヲ達シ又能ク其ノ滯留水ハ灌溉用ニ供セラル

(ニ) 塚本家寄附金工事

前記ノ外尙他ノ河川水源荒廢地ニモ亦砂防工事ノ必要ヲ認めタルモ縣ノ財政上實施スルノ運ヒニ至ラサリシカ縣下神崎郡南五個莊村塚本定次、塚本正之ノ兩氏ハ之ヲ憂ヒ砂防工事ヲ全縣下ニ普及シ施行

セラレンニハ應分ノ寄附金ヲナスヘキコトヲ申出テ縣ハ其ノ意ヲ容レ明治二十七年ヨリ全縣下ニ亘リ河川水源ノ荒廢地ニ砂防工事ヲ開始シ其ノ後大正六年度ヨリ本工事ニ對シテモ國庫ノ補助ヲ受クルコト、ナリ今ニ至ル本工事ノ施工區域ハ全管下ニ亘ルヲ以テ其ノ受クル利益極メテ大ナルモノアリ

(ホ)農商務省直轄工事

以上列記ノ外國有山林モ亦砂防工事施行ノ必要アルヲ認メラレ農商務省ハ明治四十三年度ヨリ家棟川流域ニ其ノ後草津、日野、野洲、瀬田、鴨ノ諸川流域ノ荒廢地ニモ施行セラレ其ノ内家棟、日野、野洲ノ諸川流域ハ既ニ竣功ヲ告ケ其ノ他ハ今尙施工中ナルモ遠カラス完了ヲ告クルニ至ルヘシ

(ヘ)未成地反別及工費

大正九年度以降砂防工事ノ施行ヲ要スヘキ反別及工費ノ概算ハ別表ノ如シ
砂防工事ノ監督員タル縣吏員ニ對シテハ從來國庫ノ補助ヲ受ケサリシカ大正七年度ヨリ補助ヲ受クルコト、ナレリ

砂防既成地ニ對スル修繕費ハ大正七年度ニ於テ始メテ金參千圓ヲ計上シ大正九年度ヨリ更ニ金五百圓ヲ増加シ相當維持ノ方法ヲ講シツ、アリ

三、工法及植樹

本縣ニ於テ旋行セル砂防工事ノ工法ハ大要左ノ如シ

(イ)積苗工

傾斜ノ急ナル山腹ヲ約一割内外ニ勾配直シヲナシ其ノ切取部分ヲ法高一間二分乃至一間五分ノ間隔ニ幅高各二分乃至三分ノ階段ヲ作り其ノ法勾配ヲ五分ニ仕立内部ニ肥料糞ヲ包ミ敷芝及天芝ヲ布設シ傾斜面ハ總テ張芝トス

(ロ)段積々苗工

山腹勾配直シノタメ盛土トナリシ所ニ施行スルモノニシテ其ノ工法ハ略ホ前記積苗工ト同様ナルモ間隔ヲ有セシメス連續的ニ階段ヲ作ルモノナリ

(ハ)積芝工

主トシテ積苗工又ハ段積々苗工ノ基礎又ハ小谷ノ土砂止若ハ勾配急ニシテ普通ノ積苗工ヲ施ス能ハサル山腹ニ施行スルモノニシテ高ハ二分乃至四分法勾配五分トス

(ニ)薄筋工

傾斜ノ緩ナル山腹ニ別段加工セス一間内外ノ間隔ニ薄ヲ植付クル工法ナリ

(ホ)積石工

谷止及山腹止共石材ノ豊富ナル箇所ニ積芝工ニ代ヘ施行スルモノニシテ其ノ高積石工ハ二分乃至四分

谷止積石工ハ五分乃至一聞トス

(ハ)水路張芝、及張石工

何レモ雨水又ハ湧水ヲ流下セシムルタメ適當ノ位置ヲ選擇シ水量ノ多寡又ハ材料供給ノ難易ヲ斟酌シ張芝又ハ張石トシ五分内外ノ欠圓形狀ニ仕立ツ其ノ長距離ニ亘ルトキハ中間所々ニ相當ノ床固工ヲ施ス但シ砂防工ハ主トシテ雨水ヲ地中ニ浸透セシムルヲ必要トスルヲ以テ不己得場所ノ外可成木工ハ之ヲ避クルコトニセリ

其ノ他溪流ニ於ケル河岸又ハ河床固工トシテ積石又ハ杭柵工ヲ施シ場所ニ依リ積芝工ヲ以テ護岸工ニ代フルコトアリ

(ト)粗朶伏工

傾斜ノ稍緩ナル盛土箇所ニ施スモノニシテ豫メ樹草ノ根株ヲ下敷トシ粗朶ヲ伏込ミ帶梢ニテ押へ小俣杭ヲ以テ之ヲ止メ間隔一間五分内外ニ一通リ宛普通ノ積苗工ヲ施ス場所ニヨリテハ伏込後樹苗ノ種子ニ肥土ヲ混和シ粗朶上ヨリ蒔込ムコトアリ

(チ)堰堤

河川ノ急勾配ヲ緩和シ又現狀ノマ、ニテ山腹法切りヲナス能ハサル急傾斜地ノ河岸崩壊地ニ對シ河床ヲ上嵩セシムルタメ設置ス本工事ハ其ノ維持至難ニ付之カ計畫ニ當リテハ降雨量其ノ他ヲ能ク調査シ

テ必要ノ通水斷面積ヲ定メ又基礎ノ地質ヲ精査シテ設計シ場合ニ依リテハ水叩ニ木床工ノ類ヲ附帶スルコトアリ

(リ)樹苗植栽

砂防工事創始ノ時代ニアリテハ松苗ヲ植栽セシガ其ノ生育不充分ニシテ結果良好ナラズ甚シキハ數年ナラスシテ萎縮シ枯死スルモノアルカ故ニ楮山ニハ如何ナル樹苗カ最モ適當ナルヤ官民共ニ其ノ選擇ニ苦慮シツ、アリシガ甲賀郡岩根村龍池八三郎ノ先代藤兵衛ハ同村有山林原野千二百餘町歩殆ント全部兀楮地ニシテ何等ノ收益ナキヲ歎ン砂防工事ノ必要ヲ村民ニ懇諭スルト共ニ一面樹苗ノ研究ヲ重ネツ、アリシカ明治十七年ノ頃山楡ノ秃兀地ニ最モ効果アルヲ實驗シ熱心之カ植栽ヲ村民ニ獎勵セリ縣ニ於テモ明治三十一年度ヨリ之ヲ砂防工事地ニ植栽シタルニ其ノ結果良好ニシテ獨リ發育ノ速カナルノミナラス數年ニシテ落葉ニテ地衣ヲ作り土地常ニ濕潤シテ水源涵養上偉大ノ効果アルコトヲ事實ニ證明セリ縣ハ明治三十一年嗣子八三郎ニ賞杯一組ヲ下附シ以テ先代ノ功績ヲ表彰セリ

又愛知郡秦川村西川作平ナル者居村山林ノ秃楮セルヲ憂ヒ植樹ニ努メタリト雖成績良好ナラス明治十五年申秃楮地ノ局部ニ樹木ノ繁茂セルヲ見之ヲ熟視スルニ其ノ内ニ無名ノ樹木アリ試ニ其樹苗若干ヲ秃楮地ニ移植セシニ生育ノ速カナルノミナラス又非常ニ繁殖セルヲ以テ爾來之レカ播種ニ努メ以テ秃楮地ニ植栽セリ之レ今日ノ山楡ナリ明治四十五年二月本縣ヨリ銀盃ヲ下附シテ其ノ功績ヲ表彰シ大正

八年二月村民ハ徳ヲ頌シ記念碑ヲ建テタリ

柳モ山楡ハ(一名姫ヤシヤブシ)双子葉植物ニシテ樺木科ノ半喬本ナルカ故ニ樹幹ハ偉大ノ伸長ヲナサ
スト雖根部ハ平根性ニシテ枝根ノ發生頗ル多ク相互錯綜四方ニ擴張スルカ故ニ土砂ノ崩壊ヲ扞止シテ
地盤ヲ安定ナラシムルノミナラス根部ニハ共生菌寄生スルガ故ニ能ク瘠惡地ニ生育シ其ノ種子ハ飛散
シテ天然ニ發芽シ其ノ効果偉大ナルヲ以テ爾來引續キ主木トシテ植栽シ場所ニヨリテハ松檜等ノ樹苗
ヲ混植スルコトアリ

植苗ハ二三月ノ頃植栽スヘキ地ヲ徑一尺深一尺位掘起シ其ノ土砂ヲ細末ニシテ肥料(主トシテ米藁ト
同灰ヲ混和シタルモノ)ト共ニ根元上一寸位迄埋メ且苗木ノ周圍ヲ能ク踏付ケ置ク
植栽スヘキ苗木ハ一年生ノモノニシテ其ノ幹先ヲ切斷シタル七八寸ノモノ面一坪ニ付三本乃至八本ト
ス

苗木ハ積苗階段ノ馬踏及其ノ間隔傾斜面ハ勿論筋工其ノ他傾斜ノ緩ナルタメ何等加工ヲ要セサル禿
地ニモ植栽シ其ノ成木シタルモノハ之レヲ燃料又ハ粗朶工用ニ供スルノ外煙草盆、菓子入器小箱等ノ
木細工物ニ利用セラル

又山楡ト同葉同科ニ屬スル大葉ヤシヤブシハ其ノ發育前者ニ比シ一層早ク砂防上ノ効果ト木ノ利用方
法ニ付テモ敢テ劣ラサルニ依リ近時山楡ト混植セリ

本縣ニアリテハ砂防工事用苗木及其ノ植栽共着手以來地主ニ於テ負擔シツ、アリ其ノ植栽員數參千有
餘萬本工費金有餘萬圓ニ達ス尙苗木ノ枯死セルトキハ地主ニ於テ之カ補植ヲ爲シ砂防ニ對シ絶ヘス周
到ノ注意ヲ以テ保護シツ、アリ

附

山楡苗木ノ培養

秋球實ヲ採取シテ適當ノ箇所ニ日蔭乾ニシ置ケハ十二月中頃自然ニ綻裂スルヲ簸撰法ニ依リ種子トシ
溫度ノ劇變ナキ所ニ貯藏シ翌年四月中旬苗圃(年々同一苗圃ニハ播種セサルナリ)ニ一坪ニ付一合程
播種シテ籾殻ヲ適當ニ散布シテ保護覆トシテ簞ノ類ヲ以テ床面ヨリ相當ノ間隔ヲ保チ被蔭シ絶エス除
草ヲ要ス、肥料ハ整地ノ際鯀粕ノ類ヲ用ユルノ外發芽前盛夏ニ稀薄ナル液體肥料ヲ施スモノトス、通
常一反歩ニテ苗木約十五萬本ヲ得之レニ要スル費用ハ約參百圓内外ナリ
本縣ハ前表ノ如ク尙五千餘町歩ノ未成地アルヲ以テ出來得ル限リ經濟的ニ效果アル工法ニ依リ材料ノ
如キハ施行地若クハ其ノ附近ヨリ供給シ得ヘキモノヲ使用スルヲ主眼トシ施行シツ、アルヲ以テ其ノ
効果ニ比シ工費ノ低廉ナルコトヲ信ズ殊ニ工事施行ノ當初ヨリ今日ニ至ルマテ關係部落民ハ義務的ニ
進テ勞力ヲ提供セルヲ以テ其ノ勞銀ノ如キモ極メテ低廉ナリ

四、地 質

縣下ノ河川ハ水源地ト注入口タル琵琶湖トノ距離極メテ近ク從テ川床勾配ハ急ナリ
山岳ノ地質ハ主トシテ秩父古生層ニシテ殆ント其ノ半ハ以上ヲ占メ花崗岩之ニ次ギ稀レニ第三紀層又ハ
石英斑岩ヲ混成ス

今其ノ分布ヲ工事施行ノ河川流域ニ概別スレハ左ノ如シ

大戸川（湖南東地）主トシテ花崗岩ニシテ僅カニ信樂谷及田上山附近ニ第三紀層アリ

草津川（湖東南地）上流ハ主トシテ花崗岩ニシテ中流ニ至リ秩父古生層及第三紀層アリ

葉山川（湖東南地）秩父古生層ヲ主トシ僅カニ第三紀層ヲ混ユ

野洲川（湖東地）本流ハ秩父古生層最モ廣ク花崗岩之ニ次ギ第三紀層ハ主トシテ中流以下ニ屬ス支流柳

川ノ大部分ハ第三紀層ニシテ其水源極地及本川トノ合流點附近ニ花崗岩存在ス

家棟川（湖東地）全部花崗岩ニ屬ス

日野川（湖東北）水源地ハ稍廣大ナル秩父古生層ナルモ流域全体ヨリ見レハ第三紀層多キヲ占ム

新川（八日市附近）石英斑岩ヲ主トス

愛知川（湖東北地）水源地ノ國界附近ハ花崗岩稍廣キ區域ヲ占ムルモ秩父古生層最モ廣ク山地部ヲ離レ

ントスル附近ニ至リ再ヒ花崗岩及稀レニ第三紀層存ス

宇曾川（湖東北地）禿兀地ハ全部石英斑岩ナリ

犬上川（湖東北地）秩父古生層其ノ大部分ヲ占ムルモ砂防施工地ハ石英斑岩及第三紀層ニ屬ス

天野川支流政所川彌高川（湖北地）ハ何レモ全部秩父古生層ニ屬シ所々ニ一大塊狀ヲナス石灰岩アリ

姉川（湖北地）大部分秩父古生層ニシテ中間ニ花崗岩ヲ介在ス秩父古生層中ニ帶狀ノ石灰岩アリ伊吹山

ハ主トシテ此岩質ナリ

石瀨川（湖西北地）全部秩父古生層ニ屬ス

安曇川（湖西地）殆ント秩父古生層ニシテ僅カニ花崗岩アレトモ殆ント全面積ノ一割内外ニ過キス

五、効 果

本縣ノ砂防ハ工ヲ明治五年ニ始メ歲ヲ閱スル茲ニ五十年其ノ間ニ施行シタル面積約四千八百五十六町歩
ノ多キニ達セリ之ヲ總禿積面積ニ比スレハ尙未タ其ノ半ハニ達シタルニ過キサリヲ以テ從テ効果ノ普及
ヲ見ルコト遠シト雖湖東南地方ニ於ケル往日滿面禿兀タル緒山ノ半ハ其ノ姿ヲ改メ鬱蒼タル林相ヲ呈シ
テ山岳ノ崩壞ヲ減少シ砂防工事ヲ施行シタル河川ノ上流部ニ於テハ其堆積セル土砂ヲ漸次減退シ河床ノ
降下ヲ來セリ之レ砂防森林ノ成立ニ因ル自然ノ結果ニ屬シ砂防ノ効果ヲ事實ニ證明シタルモノト云フヘ
シ

加之砂防工事ハ水源涵養トナリ昔時飲料水ノ枯渴ヲ訴ヘシ地モ工事ノ進捗ニ伴ヒ漸次潤澤トナリシモノ

アルノミナラス一般水利灌溉ニ多大ノ利益ヲ及ホシ其ノ他樹竹ノ發育蕈類ノ繁殖等効果ノ見ルヘキモノ多シ之等ハ數字的ニ其ノ價值ヲ算スル能ハザルモ今其ノ事實ノ一二ヲ掲クレハ禿山ヲ以テ有名ナリシ大戸川流域田山上ハ内務省ニ於テ明治十一年來砂防工事ヲ施行セラレタル結果トシテ今ヤ滿山ノ半ハ其裸體ヲ覆ヒ上田上村地内ニテハ河底約六尺ヲ低下シ近時所々ニ砂止堰ヲ設クルニ至リ尙本川ニ流入セル各支川モ約二三尺ヲ低下スルニ至レリ

草津川ニ於テモ上流ハ約四尺ヲ低下シ中流草津町地内ニテ本川ヲ貫通セル國道ノ隧道ハ河底低下ノタメ底張石露出シ之レカ維持ニ努メツ、アリ其他同道ヲ横斷セル野洲川支川由良川大砂川家棟川ノ隧道底張石モ亦同様ナリ

甲賀郡石部町地内野洲川支川宮川流域ノ砂防工事ハ殆ント完了セシ結果土砂ノ流出ハ絶無トナリ字山田ノ如キハ從前灌溉用水ナキタメ荒蕪地タリシモ今ハ良田トナリ其ノ他飲料水ノ如キモ著シク潤澤トナレリ

犬上郡多賀村大字敏滿寺ハ昔時飲料水ニモ缺乏ヲ告ケツ、アリシガ犬上川上流ニ砂防工事施設以來飲料水ハ勿論耕地ノ灌溉水モ潤澤トナリ又姉川流域阪田郡伊吹村ノ如キモ砂防工事施行以前ハ降雨毎ニ多大ノ土砂ヲ耕地ニ浸入シタルモ施行後ハ是等ノ被害ナキノミナラス近時約五反歩ノ荒地ヲ良田ニ開墾シタルモ尙給水ニ餘リアリ

以上ノ如ク砂防工事施行ノタメ水源ノ貯溜水ハ豊富トナリ滋賀郡滋賀村ノ如キハ水車ヲ以テ營業トセルモノ多ク是等實驗者ノ談ニヨレハ以前時々枯水シテ業ヲ中止スルコトアリシカ水源地柳川ニ砂防工事施行後如何ナル旱天ニテモ其ノ憂ナキニ至レリト云ヘリ

禿兀タル山岳ノ森相ヲ呈スルニ伴ヒ地方民ハ山林ニ對スル愛護心ヲ生シ益々加工植樹シ近時用材トシテ大ニ見ルヘキモノ尠ナカラス

要スルニ砂防工事ハ國土ノ保安ヲ維持シ地方ノ生産力ヲ増進シ水害其ノ他ノ不生産的費用ヲ節スル等其ノ効果ノ偉大ナルハ茲ニ事新ラシク呶々スルノ要ヲ見ザルベシ

六、指定土地ノ取締

砂防指定土地ニ對シテハ明治卅四年九月縣令第五十七號ヲ以テ取締規則ヲ發布シタリト雖モ當時指定土地ヲ監視スヘキ特設吏員ナク砂防工事監督吏員ヲシテ兼ネ行ハシメタルタメ指定地及工事ノ擴張ニ伴ヒ到底實蹟ヲ擧クル能ハサルト一面工事ノ進捗ニ伴ヒ既成地ガ森相ヲ呈シタル結果諸般ノ作業ヲ出願スル者多キニ依リ大正七年度ヨリ二名ノ監視吏員ヲ置キ地方民ヲシテ法規ノ知悉ト森林ノ愛撫的作業ヲ指導獎勵シ併セテ指定土地ノ維持保安ヲ計ルコト、セリ茲ニ郡市別指定地反別其ノ他ノ要領ヲ別表ニ掲ク

七、將來ノ計畫

將來砂防工事ノ施行ヲ要スヘキ面積約五千一百町歩工費金參百七十餘萬圓ナリトス然シテ既ニ施行シタル區域ハ主トシテ平易ナル山腹工事ニ屬セシヲ以テ比較的少額ノ工費ニ依リ廣大ノ施行面積ヲ得タリ從テ一見能ク其ノ効果ヲ認ムルモノアリト雖未成地ノ半バハ秩父古生層ノ地質ニシテ局部崩壞タルモ其ノ被害ノ甚大ナルモノアリ工法亦至難ニシテ莫大ノ工費ヲ要ス

今假リニ年額約金九萬圓(大正八年度ヲ根據トス)ヲ投スルトスルモ尙向フ四十有餘年ヲ要シ其ノ前途甚遠遠ナリ故ニ向後財政ノ許ス限リ各起業者ハ豫算ヲ増加シ一面又縣ノ起業ニ對シテモ國庫補助ノ増額ヲ希望シ以テ一日モ速カニ縣下四圍ノ連山ヲシテ滿目鬱蒼生産的森林タラシメ現状ヲ昔語ニスルノ時機ニ達セムコトヲ期待シツ、アリ

八、篤志家

縣下ノ猪山ハ其ノ區域廣大ニシテ財政上到底全体ニ普及シ砂防工事ヲ施行シ能ハサルヲ以テ前陳ノ如ク刻下ノ急ナル部分ニ對シ施行シツ、アリシガ明治二十六年七月縣下神崎郡南五個莊村塚本定次、塚本正之ノ兩氏ハ砂防工事ノ全管内ニ普及セラレス荒廢ノ儘ナル個所多キヲ苦慮シテ應分ノ寄附金ヲ提供シ之ニ縣費ヲ加ヘ工事ヲ縣下全般ニ施行セラレンコトヲ申出タリ卷末兩氏ノ寄附願書寫ヲ採録シタルヲ以テ其ノ意思ヲ知ルニ足ルヘシ仍チ縣ハ其ノ願意ヲ容レ寄附金額ノ倍額ヲ縣費ヨリ支出スルコト、シ明治二

十七年度ヨリ愛知川宇曾川流域ノ禿地ニ施行シ其ノ後他ノ二十有餘川ニ及ホシ内既ニ完了ヲ告ゲタル流域十二個川アリテ其ノ効果頗ル見ル可キモノアリ爾來引續キ年々相當ノ寄附ヲ爲シ其ノ總工費金拾七萬四千圓、内寄附金約六萬圓、施行反別三百十五町二反歩ノ多キニ至ル地方民其ノ德ニ感シ記念碑ヲ建ツルコト已ニ五箇所ニ及ベリ(寫眞參考)之レ一ハ以テ兩氏ノ篤行ヲ表彰スルモノナリト言フベク又以テ砂防工事ガ如何ニ縣民ニ渴望セラレツ、アルカヲ立證スルモノト言フベシ
縣へ差出シタル書面ノ寫(原文ノ儘)

其一

土砂扞止及植樹獎勵費へ寄附金ノ義ニ付御願

本縣下各山林ノ儀ハ到ル所荒廢ニ屬シ其害殆ント言フベカラザル狀況ニ付夙ニ國庫費又ハ地方稅ヲ以テ土砂扞止及植樹獎勵等ニ御着手相成候へ共其區域ノ廣濶ナルガ爲容易ニ縣下全般ニ普及スヘキ儀ニ無之私ニ遺憾ニ存居候間右經費ノ内へ金五千圓也私共ヨリ寄附可仕候ニ付未ダ御着手無之箇所則神崎外諸郡へモ來ル二十七年ヨリ地方稅ヲ以テ御着手相成速ニ回復ノ實効相現レ候様御取計被成下度此段請願候也

明治廿六年七月

神崎郡南五個莊村大字川並

塚本定次

同村 塚本正之

滋賀縣知事 大越 亨殿

追テ寄付金上納方ノ儀ハ工事上御都合モ可有之ニ付一時ニ完納又ハ數年ニ分納仕候共御廳ノ御指揮ニ
隨ヒ可申候也

其二

滋賀縣下ニ往々兀山無之様致タシ然ルニ數十萬町歩ノ山林故逆モ小額ノ金員ノ及バザル實ニ如何共致
方ナシ只地方人民ニ樹木繁植ノ巨利有ルヲ知ラセルヨリ外ハナシ百聞一見ノ諺アリ依テ各郡毎ニ尤モ
人ノ目ニ觸レ易キ場所ヲエラミ土砂扞止及苗木植附等ニ補助或ハ給與ヲ以テ獎勵致サセタシ右實施有
之度トノ寸志ヲ表スル迄ニ七月廿八日附ヲ以テ金五千圓也寄附仕度旨請願イタシ置タリ

明治二十六年十月 日

塚本正之

別表ノ一

縣内砂防工事既成反別工費一覽表

大正八年度末調

| 名 稱 | 施行反別 | 工 費 | 植 栽 費 | 計 | 摘 要 |
|-------------|----------------------|-----------------------|---------------------|-----------------------|--|
| 國 費 工 事 | 一、一六五・五 ^町 | 三、八三、一五七 ^四 | 七九、六七六 ^四 | 四、六二、八三三 ^四 | 外ニ明治五年ヨリ同十年ニ至ル間ニ工費約 六萬圓餘ヲ目的トシ工事ヲ施行セラレタル モ反別及精算額不詳 内 九三、五二一 ^町 一、六二、九六六 ^町 二、七五、四〇一 ^町 二、四四、七〇八 ^町 六、九五、五七九 ^町 五、九八、八八六 ^町 九、八六 ^町 國庫補助費 地方費 植栽費 國庫補助金 縣本家寄付 塚本家寄付 其他寄付 |
| 地方費單獨工事 | 五、八八六 | 六、〇〇一六 | 一〇、一〇八 | 七〇、二一四 | |
| 國 費 連 帶 工 事 | 一、三九六 | 二、五、六四七 | 二、七五四 | 二八、四〇一 | |
| 國庫補助工事 | 二、一九五・五 | 七二、一〇三五 | 八八、五八 | 八〇九、五六三 | |
| 塚本寄附金工事 | 三、一五二 | 一七三、五六九 | 一八、〇二七 | 一九一、五九六 | |
| 農商務省工事 | 五、二二三 | 一六六、八九二 | 一七、五七五 | 一八四、四六七 | |
| 計 | 四、八五六七 | 一、五三〇、三二六 | 二二六、六六八 | 一、七四六、九四 | |

備 考

- 一、反位及圓位ノ未滿ハ四拾五入トス
- 二、植栽費ハ國費及農商務省工事ヲ除クノ外地主ノ負擔ナリ
- 三、災害復舊及修繕工事ニ要シタル費用ハ本表ニ加算セズ

縣内砂防工事既成工種調書

大正八年度末調

| 工種 | 起業者 | | 單位 | 內務省 | 農商務省 | 滋賀縣 | 計 | 摘要 |
|-------|-----|---|----|-----------|---------|-----------|-----------|----------|
| | 業者 | 數 | | | | | | |
| 積苗工 | 1 | 1 | 間 | 1,293,600 | 406,100 | 2,871,300 | 4,571,000 | 百位未滿四拾五入 |
| 積芝工 | 1 | 1 | 間 | | 4,600 | 1,730 | 21,900 | 同 |
| 筋工 | 1 | 1 | 間 | | 311,100 | 105,100 | 236,200 | 同 |
| 山腹石積工 | 1 | 1 | 間 | 133,400 | 31,300 | 101,700 | 266,400 | 同 |
| 藁積工 | 1 | 1 | 間 | | 80,400 | 1,039,500 | 1,119,900 | 同 |
| 谷止石積工 | 1 | 1 | 間 | | 600 | 15,000 | 15,600 | 同 |
| 石堰堤 | 1 | 1 | 箇所 | 5,300 | | 2,900 | 8,200 | 同 |
| 土堰堤 | 1 | 1 | 箇所 | 29,300 | | 8,700 | 38,000 | 同 |
| 水路張芝 | 1 | 1 | 間 | | 1,000 | 5,100 | 5,100 | 同 |
| 水路張石 | 1 | 1 | 間 | | 200 | 4,600 | 4,800 | 同 |
| 床固 | 1 | 1 | 箇所 | 108 | | 26 | 134 | 同 |
| 連束藁 | 1 | 1 | 間 | 1,333,000 | | 25,200 | 1,448,500 | 同 |
| 柵工 | 1 | 1 | 間 | 141,100 | | 1,000 | 151,100 | 同 |
| 法切立坪 | 1 | 1 | 坪 | 60,300 | | 3,900 | 64,200 | 同 |

縣内砂防工事未成工種別概算調書

大正八年度末調

| 名稱 | 概算反別 | 概算工費 | 摘要 | |
|------------|------|------------|------------|------------|
| | | | 計 | 摘要 |
| 特別大石工付屬土堰堤 | 箇所 | | 73 | 73 |
| 普通石工付屬土堰堤 | 箇所 | | 99 | 99 |
| 護岸工 | 箇所 | 19,500 | 1,400 | 20,900 |
| 粗朶工 | 間 | | 500 | 500 |
| 包柴工 | 間 | | 30 | 30 |
| 散布藁工 | 坪 | 36,700 | | 36,700 |
| 土俵留工 | 箇所 | 6,600 | | 6,600 |
| 雜草伏込工 | 間 | 9,600 | | 9,600 |
| 植栽苗木 | 本 | 20,255,700 | 30,774,800 | 53,777,100 |

| 名稱 | 概算反別 | 概算工費 | 摘要 |
|------|-------|-----------|----|
| 內務省 | 2,427 | 1,898,387 | |
| 農商務省 | 1058 | 41,613 | |
| 滋賀縣 | 2,536 | 1,764,945 | |
| 計 | 5,021 | 3,704,945 | |

本概算工費ハ大正六年ニ調査シタルモノニ付其ノ後物價ノ暴騰ノ結果今日ニテハ倍額ヲ要スル見込ナリ

備考

本縣ノ起業ニ係ル大正九、十兩年度ノ施行反別及工費ノ豫算ハ左ノ如シ

| | | | |
|-------|-----|--------|----------------|
| 大正九年度 | 三四五 | 五二九七 | 大正八年度ヨリ繰下ノ分モ含ム |
| 大正十年度 | 二七六 | 六〇、五五〇 | |

別表ノ四

砂防設備土地反別其他調書

| 郡市名 | 保安林 | | 山林 | | 原野 | | 田 | | 畑 | | 宅地 | |
|-----|-----|-----------|----|-----------|----|-------|----|----------|----|---------|----|----------|
| | 筆數 | 反別 | 筆數 | 反別 | 筆數 | 反別 | 筆數 | 反別 | 筆數 | 反別 | 筆數 | 反別 |
| 滋賀 | 三 | 一、五〇〇・〇〇一 | 一七 | 一、七三六・一四 | 三 | 九七〇 | 一六 | 一、八四一・〇〇 | 一七 | 五七三・八 | 三 | 一、八三三・〇 |
| 栗原 | 二 | 二、四七三・七三 | 一〇 | 二、六五二・〇一八 | 七 | 五、二〇〇 | 二 | 一、七三九 | 一 | 一、七三〇・七 | | |
| 野洲 | 一 | 五、二五二・五九 | 六 | 五、四七〇・六 | 一 | 五〇六 | 一 | 二〇九 | | | | |
| 甲賀 | 三 | 三、八二六・二七 | 三 | 三、三三三・三三二 | 九 | 三、六一三 | 一 | 二九二・七 | 二 | 二、九一七 | | |
| 神崎 | 五 | 八、〇三三・五〇〇 | 三 | 二、五〇七・七 | 一 | 二二五 | 六 | 七二〇 | | | | |
| 愛知 | 四 | 五、八〇八 | | | | | | | | | | |
| 犬上 | 三 | 二、二五三・三二 | 二 | 三、九八一・五 | | | | | | | | |
| 坂田 | 一〇 | 二、五八九・四 | 一 | 六、六七〇・五 | | | | | | | | |
| 高島 | 三 | 八、九〇〇・〇〇 | | | | | | | | | | |
| 計 | 六〇 | 一、〇七九、六五二 | 五五 | 一、八五〇、〇六六 | 一四 | 一、四九 | 五八 | 一、三三 | 二二 | 三、八九〇・九 | 四 | 一、三三三・二五 |

砂防ノ爲メ一定ノ行爲禁止制限土地反別其他調書

| 郡市名 | 池 | | 墓地 | | 道路 | | 草 | | 生 | | 雑 | | 備 | | |
|-----|----|---------|----|-----|----|----|----|----|----|-----|----|----|----------|-----------|---------|
| | 筆數 | 反別 | 筆數 | 反別 | 筆數 | 反別 | 筆數 | 反別 | 筆數 | 反別 | 筆數 | 反別 | 筆數 | 反別 | |
| 滋賀 | 七 | 二、七三三・七 | | | | | | | 四 | 二、三 | | | 四 | 三、四三・八反三三 | |
| 栗原 | 九 | 三、六一〇 | | | | | | | | | | | 三 | 一、八一三・〇〇〇 | |
| 野洲 | 一 | 二、六二二 | | | | | | | | | | | 三 | 二、七三三・七三 | |
| 甲賀 | 三 | 八、九〇六 | | | | | | | | | | | 四 | 三、三三三・五 | |
| 神崎 | 一 | 二、三三三 | | | | | | | | | | | 七 | 七、七二八・〇〇五 | |
| 愛知 | 一 | 二、四三〇 | | | | | | | | | | | 六 | 八、三六六・八五 | |
| 犬上 | 一 | 二、四三〇 | | | | | | | | | | | 四 | 五、八六〇・八 | |
| 坂田 | 一 | 二、四三〇 | | | | | | | | | | | 四 | 一、〇三三・〇〇〇 | |
| 高島 | 一 | 二、四三〇 | | | | | | | | | | | 九 | 八、三六六・八五 | |
| 計 | 六 | 一、九九五 | 一 | 三〇〇 | 三 | 三 | 三 | 三 | 四 | 二、三 | 四 | 九 | 三、三三三・〇一 | 四 | 一、二八四・一 |

| 郡市名 | 宅 | | 地 | | 池 | | 墓 | | 道 | | 路 | | 計 | |
|-----|----|----|-------|----|------|----|------|----|------|-----|------|-----|----|----|
| | 筆數 | 反別 | 筆數 | 反別 | 筆數 | 反別 | 筆數 | 反別 | 筆數 | 反別 | 筆數 | 反別 | 筆數 | 反別 |
| 犬上 | 一 | 六 | 三三八五 | 九七 | 一五五六 | 一六 | 一五三 | 六五 | 五九二五 | 五 | 一五九二 | 一 | 三 | |
| 坂田 | 七 | 一 | 八五〇〇〇 | 一 | 一五六六 | 二〇 | 二八三 | 六七 | 四二〇六 | 一〇七 | 一 | 一〇七 | 一 | |
| 計 | 二 | 一〇 | 九七〇〇 | 九七 | 一五六六 | 三 | 三九〇四 | 一六 | 五九二五 | 一一 | 一 | 一一 | 一 | |
| 栗太 | 一 | 一 | 九七〇〇 | 一 | 一五六六 | 三 | 三九〇四 | 一 | 五九二五 | 一 | 一 | 一 | 一 | |
| 野洲 | 一 | 一 | 九七〇〇 | 一 | 一五六六 | 三 | 三九〇四 | 一 | 五九二五 | 一 | 一 | 一 | 一 | |
| 甲賀 | 一 | 一 | 九七〇〇 | 一 | 一五六六 | 三 | 三九〇四 | 一 | 五九二五 | 一 | 一 | 一 | 一 | |
| 蒲生 | 一 | 一 | 九七〇〇 | 一 | 一五六六 | 三 | 三九〇四 | 一 | 五九二五 | 一 | 一 | 一 | 一 | |
| 犬上 | 一 | 一 | 九七〇〇 | 一 | 一五六六 | 三 | 三九〇四 | 一 | 五九二五 | 一 | 一 | 一 | 一 | |
| 坂田 | 一 | 一 | 九七〇〇 | 一 | 一五六六 | 三 | 三九〇四 | 一 | 五九二五 | 一 | 一 | 一 | 一 | |
| 計 | 二 | 一〇 | 九七〇〇 | 九七 | 一五六六 | 三 | 三九〇四 | 一六 | 五九二五 | 一一 | 一 | 一一 | 一 | |

砂防法

(明治三十年三月法律第二九號)

第一章 總則

第一條 此ノ法律ニ於テ砂防設備ト稱スルハ主務大臣ノ指定シタル土地ニ於テ治水上砂防ノ爲メ施設スルモノヲ云ヒ砂防工事ト稱スルハ砂防設備ノ爲ニ施行スル作業ヲ謂フ

第二條 砂防設備ヲ要スル土地又ハ此ノ法律ニ依リ治水上砂防ノ爲メ一定ノ行爲ヲ禁止若ハ制限スヘキ土地ハ主務大臣之ヲ指定ス

第三條 此ノ法律ニ規定シタル事項ハ命令ノ定ムル所ニ從ヒ主務大臣ノ指定シタル土地ノ範圍外ニ於テ治水上砂防ノ爲施設スルモノニ準用スルコトヲ得

第二章 土地ノ制限及砂防設備

第四條 第二條ニ依リ主務大臣ノ指定シタル土地ニ於テハ地方行政廳ハ治水上砂防ノ爲一定ノ行爲ヲ禁止若ハ制限スルコトヲ得

前項ノ禁止若ハ制限ニシテ他府縣ノ利益ヲ保全スル爲必要ナルカ又ハ其ノ利害關係一府縣ニ止マラサルルトキハ主務大臣ハ前項ノ職權ヲ施行スルコトヲ得

第五條 地方行政廳ハ其ノ管内ニ於テ第二條ニ依リ主務大臣ノ指定シタル土地ヲ監視シ及其ノ管内ニ於ケル砂防設備ヲ管理シ其ノ工事ヲ施行シ其ノ維持ヲナスノ義務アルモノトス

第六條 砂防設備ニシテ他府縣ノ利益ヲ保全スル爲必要ナルカ又ハ其ノ利害關係一府縣ニ止マラサル場合ニ於テハ主務大臣ハ其ノ管理シ又ハ其ノ工事ヲ施行シ又ハ其ノ維持ヲナスコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ主務大臣ハ其ノ砂防設備ニ因リ特ニ利益ヲ受クル公共團體ノ行政廳ニ命シテ其ノ

工事ヲ施行セシメ又ハ其ノ維持ヲナサシムルコトヲ得

本條ノ場合ニ於テハ主務大臣ハ此ノ法律ニ因リ地方行政廳ノ有スル職權ヲ直接施行スルコトヲ得

第七條 地方行政廳ハ其ノ管内ノ下級行政廳ヲシテ砂防工事ヲ施行セシメ又ハ砂防設備ノ維持ヲナサシムルコトヲ得

第八條 他ノ工事、作業其他ノ行爲ニ因リ砂防工事ヲ施行スルノ必要ヲ生スルトキハ地方行政廳ハ其行爲ヲナシタルモノヲシテ其ノ工事ヲ施行シ又ハ其ノ砂防設備ノ維持ヲナサシムルコトヲ得

第九條 行政廳ハ砂防工事ノ請負ヲナスコトヲ得ス

第十條 砂防工事ノ請負ノ制限ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十一條 第二條ニ依リ主務大臣ノ指定シタル土地ニ對シテハ勅令ノ定ムル所ニ從ヒ地租其ノ他ノ公課ヲ減免スルコトヲ得

第三章

砂防ニ關スル費用ノ負擔、土地所有者ノ權利義務並收入等

第十二條 第二條ニ依リ主務大臣ノ指定シタル土地ノ監視及砂防設備ノ管理、維持並砂防工事ニ要スル費用ハ府縣ノ負擔トス

第十三條 砂防工事ニ要スル費用ハ其一部ヲ國庫ヨリ府縣ニ補助スルコトヲ得

前項國庫ノ補助額ハ工費豫算ノ三分ノ二ヲ超過スルコトヲ得ス

本條ノ補助金ハ精算ノ上其費用ノ三分ノ二ヲ超過スルコトアルモ其超過額ヲ還付セシメサルコトヲ得
災害ニ依リ必要ヲ生シタル砂防工事ニ要スル費用ハ本條ニ依ルノ限ニアラス

第十四條 第六條ニ依リ主務大臣ニ於テ砂防設備ノ管理及維持ヲナシ又ハ砂防工事ヲ施行スル場合ニ於テハ其費用ハ國庫ノ負擔トス

前項ノ場合ニ於テハ主務大臣ハ府縣ヲシテ前項費用ノ三分ノ一以內ヲ負擔セシムルコトヲ得

前項ニ依リ府縣ノ負擔スヘキ金額並其ノ年度割及納付期限等ハ主務大臣之ヲ定ム

第十五條 地方行政廳ハ其管内ノ下級公共團體ヲシテ砂防ニ關スル費用ノ一部ヲ負擔セシムルコトヲ得

第十六條 砂防工事ニシテ他ノ工事、作業其ノ他ノ行爲ニ因リ必要ヲ生スルモノナルトキハ其ノ費用ハ工事ノ必要ヲ生スル程度ニ於テ其ノ原因タル工事作業其ノ他ノ行爲ニ關シ費用ヲ負擔スルモノヲシテ之ヲ負擔セシムルコトヲ得 但シ河川法第三十二條第二項ノ場合ハ此ノ限りニ在ラス

第十七條 砂防工事ニシテ他ノ府縣若ハ他府縣内ノ公共團體ニ於テ著シク利益ヲ受クルモノナルトキハ其府縣若ハ其ノ府縣内ノ公共團體ヲシテ其ノ費用ノ一部ヲ負擔セシムルコトヲ得

第十八條 此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依リ行政廳ノ命シタル事項ヲ遵守スル爲メニ要

スル費用ハ特別ノ規程ヲ設ケタル場合ヲ除クノ外其ノ命ヲ受ケタル者ノ負擔トス

主務大臣若ハ地方行政廳ニ於テ義務者ノ履行スヘキ義務ヲ自ラ執行シ又ハ第三者ヲシテ執行セシメタルカ爲ニ要シタル費用ハ其ノ義務者ヨリ之ヲ追徴スルコトヲ得

第十九條 公共團體ハ砂防工事若ハ砂防ニ關スル費用ノ爲寄付ヲナスコトヲ得

第二十條 公共團體ハ砂防ニ關スル費用ニ付私人若ハ其ノ區域内ノ下級公共團體ニ補助ヲナスコトヲ得

第二十一條 公共團體ハ砂防ニ關スル費用ニ付利害關係ノ厚薄ヲ標準トシテ其區域内ニ於テ不均一ノ賦課ヲナスコトヲ得

第二十二條 砂防工事ノ爲必要ナルトキハ地方行政廳ハ管内ノ土地若クハ森林ノ所有者ニ命シ補償金ト

シテ時價相當ノ金額ヲ下付シテ其ノ所有ニ係ル土石、砂礫、芝草、竹木及運搬具ヲ供給セシムルコトヲ得 但時價ニ關シテ協議整ハサルトキ又ハ所有者不明ナルトキ若ハ其ノ所在不明ナルトキハ地方行政廳ハ相當ト認ムル金額ヲ供託シテ本條ノ供給ヲナサシムルコトヲ得

第二十三條 砂防ノ爲必要ナルトキハ行政廳ハ第二條ニ依リ主務大臣ノ指定シタル土地又ハ之ニ隣接ス

ル土地ニ立入り又ハ其土地ヲ材料置場等ニ供シ又ハ已ムヲ得サルトキハ其ノ土地ニ現在スル障害物ヲ除却スルコトヲ得

前項ノ適用ニ依リ損害ヲ受ケタル者ハ使用若ハ除却ノ後三ヶ月以内ニ補償金ヲ請求スルコトヲ得

第二十四條 第二條ニ依リ主務大臣ノ指定シタル土地ノ所有者若ハ關係人ハ行政廳若ハ其ノ命ヲ受ケタル私人ニ於テ其ノ土地ニ砂防工事ヲ施行シ又ハ砂防設備ノ維持ヲナスコトヲ拒ムコトヲ得ス

第二十五條 法律、命令若ハ許可認可ノ條件ニ違背シタル工事設備若クハ工作物ノ管理ニ依リ損害ヲ受ケシメタルモノハ其ノ損害ヲ賠償スヘシ

第二十六條 此ノ法律ニ依リ行政廳ニ於テ下付スヘキ補償金若クハ賠償金ハ其ノ行政廳ノ直接ニ管轄スル公共團體ノ負擔トス

第二十七條 砂防設備ヨリ生スル收入ハ府縣ニ歸ス但シ地方行政廳ハ其ノ收入ヲ第二條ニ依リ主務大臣

ノ指定シタル土地若ハ其土地ニ在ル森林ノ所有者又ハ其ノ砂防設備ノ施設者ニ下付スルコトヲ得

第二十八條 砂防設備ニシテ其ノ公用ヲ廢シタルトキハ地方行政廳ハ之ヲ其ノ砂防設備ノ現在スル土地若クハ森林ノ所有者ニ下付スルコトヲ得

第四章 警察監督及強制手續

第二十九條 第四條ニ依リ主務大臣若クハ地方行政廳ニ於テ一定ノ事項ニ對シ許可ヲ受ケシメタル場合

ニ於テ必要ト認ムルトキハ主務大臣若ハ地方行政廳ハ其ノ許可ヲ取消シ若ハ其ノ効力ヲ停止シ若ハ其ノ條件ヲ變更シ又ハ設備ノ變更若ハ原形ノ回復ヲ命シ又ハ許可セラレタル事項ニ依リ生スル害ヲ豫防

スル爲ニ必要ナル設備ヲ命スルコトヲ得

第三十條 法律、命令若ハ許可ノ條件ニ違背シタル者ハ行政廳ノ命スル所ニ從ヒ其ノ違背ニ依リテ生スル事實ヲ更正シ且其ノ違背ニ依リテ生スヘキ損害ヲ豫防スル爲ニ必要ナル設備ヲナスヘシ

第三十一條 地方行政廳ハ第二條ニ依リ主務大臣ノ指定シタル土地監視ノ爲竝砂防設備管理ノ爲吏員ヲ置クヘシ其ノ定員、給料手當職務權限竝其ノ費用ノ負擔者等ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十二條 主務大臣ハ砂防ニ關スル行政ヲ監督ス地方行政廳ヲシテ第一次ニ於テ監督セシムヘキ事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

此法律ニ規定シタル事項ニシテ主務大臣若ハ地方行政廳ノ認可ヲ要スルモノハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十九條及第二十條ニ規定シタル事項竝此法律ニ依リ行政廳ニ付與シタル職權ニ關シテハ命令ヲ以テ制限ヲ設クルコトヲ得

第三十三條 他ノ府縣若ハ他府縣内ノ公共團體若ハ私人ヲシテ費用ヲ負擔セシムル爲ニ必要ナル手續ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十四條 主務大臣ハ地方行政廳ニ命シテ砂防工事ヲ施行セシメ其ノ他此ノ法律ニ規定シタル地方行政廳ノ職權ヲ施行セシムルコトヲ得

第三十五條 義務者ニ於テ此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依ル義務ヲ履行セス若ハ之ヲ履

行スルモ必要ノ期限内ニ終了スルノ見込ナキトキ又ハ其ノ履行ノ方法宜ヲ得サルトキハ主務大臣若ハ地方行政廳ハ自ラ之ヲ執行シ又ハ第三者ヲシテ之ヲ執行セシムルコトヲ得

第三十六條 私人ニ於テ此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依ル義務ヲ怠ルトキハ主務大臣若ハ地方行政廳ハ一定ノ期限ヲ示シ若シ期限内ニ履行セサルトキ若ハ之ヲ履行スルモ不充分ナルトキハ五百圓以内ニ於テ指定シタル過料ニ處スルコトヲ豫告シテ其ノ履行ヲ命スルコトヲ得

第三十七條 此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ規定シタル事項ニ關シ保證金ヲ納付セシメタル場合ニ於テハ行政廳ニ於テ直ニ之ヲ其ノ納付ノ目的又ハ過料ニ充用スルコトヲ得
前項保證金ハ他ノ債權ノ爲ニ差押フルコトヲ得ス

第三十八條 此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依リ私人ニ於テ負擔スヘキ費用及過料ハ此ノ法律ニ於テ特ニ民事訴訟ヲ許シタル場合ヲ除クノ外行政廳ニ於テ國稅ノ滯納處分ニ關スル規定ニ依リ之ヲ徵收スルコトヲ得

前項ノ費用及過料ニ付キ行政廳ハ國稅ニ次キ先取特權ヲ有スルモノトス

此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依リ公共團體ニ於テ負擔スヘキ費用ニ關シテハ此法律ニ於テ特ニ民事訴訟ヲ許シタル場合ヲ除クノ外主務大臣若ハ地方行政廳ハ必要ナル場合ニ於テハ金額ヲ定メテ之ヲ其ノ豫算表ニ掲ケ其他必要ナル處分ヲ指揮シ直チニ其ノ金額ヲ支出セシムルコトヲ得

第三十九條 此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依リ行政廳ニ付與シタル職權ハ行政處分ニ依リ之ヲ強制スルコトヲ得行政廳ノ許可若ハ認可ニ附シタル條件ニ關シテモ亦本條及前條ヲ準用ス

第四十條 此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ規定シタル事項ニ關シテハ砂防視察ノ職務ヲ有スル官吏ヲシテ命令ノ定ムル所ニ從ヒ警察官ノ職權ノ全部若ハ一部ヲ執行セシムルコトヲ得

第四十一條 此ノ法律ニ規定シタル私人ノ義務ニ關シテハ命令ヲ以テ二百圓以内ノ罰金若ハ一年以下ノ禁錮ノ罰則ヲ設クルコトヲ得

第五章 訴願及訴訟

第四十二條 此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依リ主務大臣若ハ地方行政廳ノナシタル處分ニ對シ不服アル私人若ハ公共團體ハ主務大臣ニ訴願スルコトヲ得

此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令若ハ地方行政廳ノ委任ニ依リ下級行政廳ノナシタル處分ニ對シテ不服アル私人若クハ公共團體ハ地方行政廳ニ訴願シ地方行政廳ノ裁決ニ不服アルモノハ主務大臣ニ訴願スルコトヲ得

此ノ法律ニ依リ行政訴訟ノ提起ヲ許シタル場合ニ於テハ主務大臣ニ訴願スルコトヲ得ズ

第四十三條 此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ規定シタル事項ニ關シ行政廳ノ違法處分ニ依

リ權利ヲ毀損セラレタリトスル私人若ハ公共團體ハ前條ニ依リ訴願ノ裁決ヲ經タル後行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得

但シ主務大臣若ハ地方行政廳ノ處分ニ對シテハ直ニ之ヲ提起スルコトヲ得

第四十四條 第二十五條ニ依リ損害賠償ヲ請求スル私人若ハ公共團體ハ損害ヲ受ケタル日ヨリ三ヶ月以内ニ民事訴訟ヲ提起スルコトヲ得

法律、命令若ハ許可認可ノ條件ニ違背シタルヤ否ヤニ付キ爭アルトキハ前數條ノ手續又ハ監督官廳ノ決定ニ依リ其ノ違背シタリトノ事實確定シタル後ニアラサレハ民事訴訟ヲ提起スルコトヲ得ス 但シ此ノ場合ニ於テハ前項ノ期間ハ確定ノ日ヨリ起算スルモノトス

第四十五條 第二十二條若ハ第二十三條ニ依リ下付スヘキ補償金額ニ對シ不服アルトキハ行政廳ニ於テ金額ノ通知ヲナシタル日ヨリ六ヶ月以内ニ民事訴訟ヲ提起スルコトヲ得 但シ第二十三條ノ場合ニ於テ補償金請求ノ後六ヶ月以内ニ其金額ノ通知ナキトキハ其期限經過後六ヶ月以内ニ民事訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第四十六條 此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ規程シタル事項ニ關シテハ本章ノ規程ニ依リ特ニ許シタル場合ヲ除クノ外訴願若ハ行政訴訟ヲ提起シ又ハ行政廳ニ對シ民事訴訟ヲ提起スルコトヲ得ス

第六章 附 則

三六

第四十七條 此ノ法律ハ明治三十年四月一日ヨリ施行ス

此ノ法律ヲ施行スル爲ニ必要ナル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第四十八條 第二條ニ依リ主務大臣ノ指定シタル土地ニアル從來ノ砂防ニ關シテハ勅令ヲ以テ特別ノ規程ヲ設クル場合ヲ除クノ外此ノ法律ノ規程ニ依ル

砂 防 法 施 行 規 程

(明治三十年十月勅令第三八二號)

第一條 内務大臣ニ於テ砂防法第二條ニ依リ指定スル土地ハ官報ヲ以テ之ヲ告示スヘシ

第二條 砂防法第三條ニ依リ同法ニ規定シタル事項ヲ準用スヘキ施設物ハ府縣知事ニ於テ其ノ地方ノ公布式ヲ以テ之ヲ告示スヘシ其準用スヘキ事項ハ府縣令ヲ以テ之ヲ定ム但シ同法第十三條及第十四條ニ規定シタル事項ハ之ヲ準用スルコトヲ得ス

第三條 砂防法第四條ニ依リ禁止若ハ制限スヘキ行爲ハ同條第一項ノ場合ニ於テハ府縣令ヲ以テ第二項ノ場合ニ於テハ内務省令ヲ以テ之ヲ定ム

第四條 砂防法第六條第一項ニ依リ内務大臣ニ於テ砂防設備ヲ管理シ又ハ其ノ維持ヲナス場合ニ於テハ其ノ砂防設備ヲ、其工事ヲ施行スル場合ニ於テハ其ノ砂防設備工事ノ施行區域及起工年度ヲ官報ヲ以テ告示スヘシ

前項ノ工事ヲ終了シタルトキハ官報ヲ以テ之ヲ告示スヘシ

砂防法第六條第二項ニ依リ内務大臣ニ於テ砂防設備ニ因リ特ニ利益ヲ受クル公共團體ノ行政廳ニ命シテ其ノ工事ヲ施行セシメ又ハ其維持ヲ爲サシムル場合ニ於テモ亦前二項ノ例ニ依ル

第五條 内務大臣ニ於テ砂防設備ノ管理又ハ其ノ維持ヲナストキハ内務省直轄ノ土木事業ニ準シテ土木監督署長之ヲ行フ

第六條 砂防法第二十二條ニ依リ府縣知事ニ於テ土石、砂礫、芝草、竹木及運搬具ノ供給ヲナサシメムトスルトキハ少クトモ五日前ニ其ノ供給セシムヘキ物件ノ種類、數量及補償金額等ヲ其ノ所有者ニ通知スヘシ若シ其所有者不明ナルトキ又ハ其ノ所在不明ナルトキハ物件所在地ノ市町村長ニ通知スヘシ

第七條 砂防法第二十三條ニ依リ府縣知事、郡長、市參事會、町村長、町村組合長又ハ水利組合ノ管理若シテ内務大臣ノ指定シタル土地又ハ之ニ隣接スル土地ヲ材料置場等ニ供セムトスルトキハ少クトモ五日前ニ又之ニ現在スル障害物ヲ除却セムトスルトキハ少クトモ十五日前ニ其ノ場所若ハ障害物ヲ其所有者ニ通知スヘシ若シ其ノ所有者不明ナルトキ又ハ其ノ所在不明ナルトキハ其土地ノ市町村長ニ

通知スヘシ

第八條 行政廳若ハ其ノ命ヲ受ケタル私人ニ於テ砂防工事ヲ施行セムトスルトキハ少クトモ七日前ニ之ヲ其ノ土地所有者ニ通知スヘシ若シ其所有者不明ナルトキ又ハ其所在不明ナルトキハ其ノ土地ノ市町村長ニ通知スヘシ

第九條 砂防ニ關スル費用ノ豫算ニシテ砂防法第二條ニ依ル土地ノ指定前ニ確定シタルモノハ其ノ指定ノ爲メ其ノ効力ヲ失ハス前項ノ豫算ニ依リ執行スヘキ事項ハ従前ノ規程又ハ慣習ニ依リ既ニ定リタル執行者ニ於テ之ヲ行フ

第十條 砂防法ニ基キテ發スル命令ニ依リ行政廳ノ許可ヲ受クヘキ事項ハ從來許可ヲ受ケタルモノト雖内務大臣又ハ府縣知事ノ定ムル所ノ期限内ニ於テ更ニ其ノ許可ヲ受クヘシ

砂防ニ關スル行政監督ノ件

(明治三十一年一月勅令第一五號)

第一條 砂防法若ハ之ニ基キテ發スル命令ニ依リ郡、市、町、村、町村組合又ハ水利組合ノ行政廳ニ於テ執行スル砂防ニ關スル行政及府縣知事ノ命シ又ハ許可シタル事項ニ關シテハ第一次ニ於テ府縣知事之ヲ

監督シ第二次ニ於テ内務大臣之ヲ監督ス

第二條 左ニ掲クル事項及其變更、停止又ハ廢止ハ内務大臣ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス但シ利害關係小

ニシテ内務大臣ニ於テ命令ヲ以テ認可ヲ要セスト規定シタルモノハ此限りニアラス

一、砂防法第三條ニ依ル準用

二、砂防法第四條ニ依リ府縣知事ニ於テ禁止若ハ制限スヘキ一定ノ行爲

三、砂防法第七條及第八條ニ依ル府縣知事ノ處分

四、砂防法第十三條ニ依リ國庫ノ補助ヲ受クル砂防工事ノ計畫及其工費豫算

五、砂防法第十五條乃至第十七條ニ依ル費用ノ負擔方法

六、砂防法第二十一條ニ依ル府縣ノ不均一ノ賦課

七、國庫ノ補助ヲ受ケテ施設シタル砂防設備ノ公用廢止

第三條 左ニ掲クル事項及其變更、停止又ハ廢止ハ府縣知事ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス

一、砂防法第二十一條ニ依ル下級公共團體ノ不均一ノ賦課

二、砂防法第二十三條ニ依リ下級行政廳ノナスヘキ障害物ノ除却

三、砂防法第三十條ニ依ル下級行政廳ノ處分

第四條 砂防法第十九條ニ依リ郡、市、町、村、町村組合又ハ水利組合ニ於テ寄附ヲナストキハ左ノ條件ヲ

具シ且府縣知事ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス

一、砂防ニ關スル事業ニシテ寄附ヲナサントスル公共團體ノ利害ニ直接ニ關係アルコト

二、寄附ヲナサントスル公共團體ニ於テ起債ノ方法ニ依ラスシテ寄付ヲナシ得ヘキコト

第五條 砂防法第二十條ニ依リ郡、市、町、村、町村組合又ハ水利組合ニ於テ補助ヲナストキハ左ノ條件ヲ具備シ且府縣知事ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス

一、砂防ニ關スル事業ニシテ永遠ノ利益ヲ目的トシテ且其補助ヲ受クヘキモノニ於テ其費用ノ負擔ニ堪ヘサルコト

二、補助ヲナサントスル公共團體ニ於テ起債ノ方法ニ依ラスシテ補助ヲナシ得ヘキコト

砂防法第十一條ノ地租其他ノ公課減免ニ關スル件

(明治三十二年八月勅令第三七四號)

第一條 砂防法ニ依リ一定ノ行爲ヲ禁止又ハ制限シタル土地ニ對シテハ其所有者ノ申請ニ依リ地租ヲ免除又ハ輕減スルコトヲ得

第二條 前條ニ依リ地租ヲ免除シタル土地ニ對シテハ地租以外ノ公課ヲ免除シ其地租ヲ輕減シタル土地ニ對シテハ同一ノ割合ヲ以テ地租以外ノ公課ヲ輕減ス

第三條 本令ニ依ル地租其他ノ公課ノ免除又ハ輕減ノ期間ハ一定ノ行爲ヲ禁止又ハ制限シタル月ヨリ其禁止又ハ制限ヲ解キタル月迄トス

第四條 本令ニ依リ地租ノ免除又ハ輕減ヲ受ケムトスル者ハ稅務管理局長ニ申請スヘシ

砂防法第三十三條ニ依レル命令ノ件

(明治三十三年七月二十二日内務省令第三九號)

第一條 府縣知事ニ於テ他ノ府縣又ハ他ノ府縣内其ノ公共團體若ハ私人ヲシテ砂防ニ關スル費用ヲ負擔セシメントスルトキハ其ノ負擔者カ府縣又ハ公共團體ナル場合ニ於テハ其府縣知事ニ協議ノ上負擔金額及納付期限ヲ定メ私人ナル場合ニ於テハ府縣知事自ラ之ヲ定ムヘシ

第二條 前條ニ依リ負擔金額及納付期限定マリタルトキハ府縣知事ニ於テ土木監督署ヲ經由シテ内務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第三條 第一條ノ協議調ハサルトキハ府縣知事ニ於テ土木監督署ヲ經由シテ内務大臣ノ指揮ヲ受クヘシ

第四條 府縣知事ハ他ノ府縣又ハ他ノ府縣内ノ公共團體若ハ私人ヲシテ負擔セシムヘキ金額及納付セシムヘキ期限確定シタルトキハ之ヲ其府縣知事ニ通知スヘシ

前項ノ通知ヲ受ケタル府縣知事ハ其府縣内ノ公共團體若ハ私人ヲシテ負擔セシムヘキ金額アル場合ニ

於テハ更ニ其ノ金額及納付期限ヲ其公共團體ヲ直接ニ管轄スル行政廳又ハ私人ニ通知スヘシ

第五條 他ノ府縣ニ於テ期限内ニ其負擔金額ヲ納付セサルトキハ府縣知事ハ内務大臣ニ其旨ヲ具申スヘシ

他ノ府縣内ノ公共團體又ハ私人ニ於テ其負擔金額ヲ期限内ニ納付セサルトキハ府縣知事ハ其公共團體又ハ私人ヲ管轄スル府縣知事ニ其旨ヲ通知スヘシ

前項ノ通知ヲ受ケタル府縣知事ハ砂防法第三十八條ニ依リ直ニ其處分ヲ爲スヘシ

第六條 内務大臣ニ於テ自ラ砂防設備ノ管理ヲ爲シ又ハ其工事ヲ施行シ又ハ其維持ヲ爲ス場合ニ於テハ他ノ府縣又ハ他ノ府縣内ノ公共團體若ハ私人ヲシテ負擔セシムヘキ金額及納付セシムヘキ期限ハ内務大臣之ヲ定ム

砂防指定地取締規則

(明治三十四年九月十四日縣令第五七號)

明治三十年法律第二十九號砂防法第四條ニ依リ砂防指定地取締規則左ノ通り之ヲ定ム

砂防指定地取締規則

第一條 本則ハ砂防法第二條ニ依リ主務大臣ノ指定セラレタル土地ニ適用ス

第二條 砂防指定地ニ於テハ左ノ行爲ヲ禁止ス

- 一、開 墾
- 二、木竹ノ皆伐
- 三、木竹根ノ掘取
- 四、牛馬ノ放牧
- 五、焚 火

第三條 砂防指定地ニ於テ左ノ行爲ヲナサムトスルモノハ左記書式ニ依リ施行ニケ月以前ニ郡市町村長ヲ經テ知事ニ願出許可ヲ受クヘシ

- 一、木竹ノ間伐、擇伐、枝打
- 二、枯損木竹ノ伐採
- 三、土石ノ採掘
- 四、芝及柴草竝落葉ノ採收
- 五、小屋掛ノ施設
- 六、炭燒竈、陶器燒竈、石灰燒竈ノ施設
- 七、火 入
- 八、公益上必要ナル工事ノ施行

第四條 郡市長ニ於テ前條ノ願書ヲ受理シタルトキハ其所有者及施行地名、地番、反別、等所轄稅務署土地臺帳ノ照合ヲ受ケ進達スヘシ

第五條 第二條ニ違犯シタルモノハ五拾圓以内ノ罰金ニ處シ第三條ニ違背シタルモノハ貳拾圓未滿ノ科料又ハ三十日未滿ノ拘留ニ處ス

附 則

第六條 第三條ノ砂防指定地ニ於ケル作業ニシテ森林若ハ森林トシテ管理スヘキ土地ニ付テハ明治四十年縣令第二十八號森林法施行規程ニ依リ申請スルトキハ本則ニ依ルヘキ出願ノ手續ヲ省畧スルコトヲ得

砂防監視吏員設置規程

(大正七年三月三十日縣令第十六號)

第一條 砂防監視吏員ハ其ノ定員ヲ二名トス

第二條 砂防監視吏員ハ内務部土木課ニ屬シ上司ノ命ヲ承ケ左ノ事務ニ從事ス

- 一、砂防法ニ依リ主務大臣ノ指定シタル土地ノ監視
- 一、砂防設備ノ管理

第三條 砂防監視吏員ノ給料ハ拾圓以上トス但シ事務ノ繁閑ニ依リ最低額以下ヲ支給スルコトヲ得

俸給支給ノ方法ハ縣稅支辨俸給支給規則ヲ準用ス

第四條 砂防監視吏員公務ノ爲旅行スルトキハ旅費ヲ支給ス其ノ金額及支給ノ方法ハ別ニ之ヲ定ム

第五條 砂防監視吏員ニ屬スル費用ハ縣ノ負擔トス

附 則

本規程ハ大正七年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

砂防監視吏員服務心得

(大正七年四月一日訓令第四號)

第一條 砂防監視吏員ノ掌理スヘキ要項左ノ如シ

- 一、砂防指定地ノ監視
 - 二、砂防設備ノ管理
 - 三、法律命令又ハ許可ノ條件ニ依リ施行スヘキ事項
 - 四、各種作業ノ検査並其跡地ノ整理
 - 五、前各號ノ外特ニ命セラレタル事項
- 第二條 法律命令又ハ許可ノ條件ニ違背ノ行爲ヲ發見シタルトキハ相當措置ノ手續ヲナスヘシ
- 第三條 左ノ事項ニ付キテハ知事ニ意見ヲ開申スヘシ

- 一、砂防法ニ依リ新ニ土地ノ指定ヲ要スト認ムルトキ
 - 二、既ニ指定シアル土地ノ解除ヲ要スト認ムルトキ
 - 三、砂防法第三條ニヨリ指定地外ニ同法ノ準用ヲ要スト認ムルトキ
 - 四、一定ノ行爲禁止制限事項ノ加除訂正ヲ要スト認ムルトキ
 - 五、砂防設備ノ公用ヲ廢止スル必要アリト認ムルトキ
 - 六、既設砂防工事ノ維持修繕
 - 七、前各號以外砂防法ノ適用ヲ要スト認ムルトキ
- 第四條 本心得ニ依リ掌理シタル事項ハ其ノ都度復命スヘシ

大正九年十一月二十三日印刷
 大正九年十一月二十一日發行

三十一

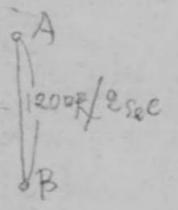
滋賀縣

岐阜縣大垣市郭町百五十三番戶
 西濃印刷株式會社代表者

印刷者 河田貞次郎

印刷所 岐阜縣大垣市郭町百五十三番戶
 西濃印刷株式會社

397
84



$$v = 2gS$$

$$\frac{100}{2} = 2gS$$

$$S = \left(\frac{100}{2}\right)^2 \frac{1}{2g}$$

$$S = \frac{v^2}{2g}$$

$$S = \frac{100^2}{2 \times 2 \times 9.8}$$

$\frac{10000}{39.2}$
 $\frac{10000}{39.2} = 255.102$

oe

$$\frac{1000}{33}$$

$$\frac{100}{3.3}$$

終

